

グラフィック

GRAPH sketch

先月の県政の動きをレポート

「福井の魅力あふれる特産品が勢ぞろい」 「ふくいふるさと市場大集合」を開催

各地の人気商品やその地域でしか購入できない逸品などを一堂に集めて販売し、消費拡大を目指す「ふくいふるさと市場大集合」を、3月1日から6日にかけて福井市内の百貨店で開催しました。

約60店舗がブースを構えた会場内では、選りすぐりの海産物やデザートなどの食品のほか、越前打刃物などの工芸品を数多く販売。抽選会や日替わりプレゼントなどもあり、たくさんの人出で賑わいました。



(上) 実演販売やイベントもあり会場内は大賑わい
(下) 1月から2月には県内20か所で行われた「ふくいふるさと市場」も開催



「大河ドラマの見どころを披露」

大地康雄さんのトークショーを開催

大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」でお江たち三姉妹の父親である柴田勝家役を演じた俳優の大地康雄さんらによるトークショーを、3月3日にアオッサ(福井市)で開催しました。

会場では、大地さんや番組チーフプロデューサーの屋敷陽太郎さんが「～男たちが語る“姫たちの戦国”～」をテーマに、番組の見どころや撮影の裏話を披露。集まった500名の聴衆を前に、今回の大河ドラマと福井のゆかりについて語りました。



「小浜の新たな玄関口へ」

道の駅「若狭おばま」がオープン

この夏に予定される舞鶴若狭自動車道小浜インターチェンジ(IC)の供用開始に先立ち、県と小浜市が同市和久里で整備を進めてきた道の駅「若狭おばま」が、3月12日にオープンしました。

ICから約300メートルの場所に完成した道の駅は、休憩所としての機能に加え、地元の農産物や伝統工芸品、軽食などの物販スペースが充実。同12日と13日には、屋台によるご当地グルメや地魚の販売などもあり、たくさんの人たちで賑わいました。

(上) 小浜の新しい玄関口として期待が高まる道の駅
(下) 駅内には若狭の特産品が豊富にそろう

「被災地に温かい支援の手を」 「平成23年東北地方太平洋沖地震」への支援活動を実施

国内史上最大規模の大災害となった「平成23年東北地方太平洋沖地震」。県内では、被災地に対する数々の支援活動が展開されました。

県では発災直後に緊急の対策会議を開催し、被災地に対する応援活動の実施を決定。県職員や県防災ヘリ、県立病院などのDMAT(災害派遣医療チーム)が現地で救援活動などを行っています。

また、災害ボランティアや、義援物資、義援金の募集も実施。県民や県内企業の温かい支援を被災地に送り届けました。

(上) 県庁や各健康福祉センターに県民からの義援物資が次々と届く
(左下) 県立病院DMAT隊が被災地で救護活動などを実施
(右下) 被災地に応援に向かう災害ボランティアの皆さん



(上) 最先端技術装置を用いた治療に期待が高まる
(下) 関係者によるテープカットでオープンを祝う

「最先端の医療でさらなる健康長寿を」 「県立病院陽子線がん治療センター」が開所

放射線の一種である陽子線を用いてがんを治療する「陽子線がん治療センター」を県立病院に開設。3月7日から治療を開始しました。

これに先立ち6日には記念式典を開催。テープカットなどを行い、日本海側初となる陽子線がん治療施設のオープンを祝いました。

陽子線がん治療は、副作用が少なく通院治療もできる画期的な治療法で、センターでは患部がはっきりとした固形がん5種類を対象に治療を実施。治療費用は全国最低水準に設定し、治療費への助成など独自の負担軽減策も設けています。

今後も県では、がん検診の受診率向上に向けた活動なども進めながら、さらなる健康長寿を目指していきます。

- 治療対象疾患……①前立腺がん ②頭頸部腫瘍 ③非小細胞肺癌 ④肝細胞がん ⑤肺・肝・骨・リンパ節等に転移したがん
- 治療費用……240～260万円(公的医療保険適用外) ※各種助成制度があります。
- 治療手続き……まずは主治医に相談してください。
- 相談専用ダイヤル…0776-57-2981(平日8:30～17:00)